

所長 あいさつ

昨年は計画訪問や研究公開等の二十校あまりで授業の様子を見る機会を得た。子どもの思いや考えを大切にしたい学び合いへの取組に感謝申し上げたい。主体的な学びには、思考の流れを組み立てるための深い教材研究や発想・発見を導くための教具等の準備に多くの労を要する。改めて、教員という仕事は、子どもの「分かった」瞬間の笑顔が好きでないとやっていけないものだと実感するところであった。

大したことではないのだが自分なりに授業参観の流儀がある。単に教室の前から子どもの表情を観るというだけのことなのだが、そのまなざしからは子ども一人一人の生の気持ち伝わってくる。ある意味で新鮮な授業評価であり、教師はその一瞬一瞬が楽しくもあり苦しくもある。教師の熱い思いと子どもの率直な反応による掛け合いを見るのが楽しい。

蛇足ではあるが、アクティブ・ラーニングとは、話し合い活動などの外見が活発であることではなく、そこにつながる課題意識や解決に向けた思考が、子どもの中でアクティブになっているかという点とである。授業を前から観るとそのことがよく分かる。



事故・違反0を目指して!! (総務課長)

新年明けましておめでとうございます。御家族の皆様とよい新年を迎えられたことと思います。本年も皆様にとって、よい年であることを祈念しております。

さて、タイトルに「事故・違反0を目指して!!」と書かせて頂きました。残念ながら昨年度は、重大な死亡事故が発生し、交通違反も跡を絶たない状況でした。

今年度は、限りなく交通事故・交通違反を0にすることを目指して、皆様とともに、心を引き締め頑張っていきたいと考えております。

『交通事故・交通違反を起こすと』

- ・ 重大事故を起こした場合、一生償わなければなりません(精神的苦痛は、はかりしれません)。
- ・ 家庭が崩壊する可能性があります。
- ・ 最悪、職を失うこともあります。

人間は、魔が差すことがあります。それを防ぐのは 日頃の心がけです。自分と家族を守りましょう。

「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けて

(指導課長)

新しい年を迎え、各学校では清心な気持ちで3学期をスタートされたことと思います。

昨年は、中教審の審議のまとめで、学習指導要領の改訂の方向性として、アクティブ・ラーニングの考え方を基に、「主体的・対話的で深い学び」の実現といった授業改善の視点が示されました。

アクティブ・ラーニングは、特定の指導の型を示したものではなく、子どもたちの学びの質を高めるために、各学校で、教員一人一人の創意工夫を基に創り出していくものです。そのためには、日々の授業研究に「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」といったそれぞれの視点を具体化して位置付け、共通理解を図りながら、研究実践を積み上げていく必要があります。

今年度は、各学校の実情に即した、オリジナルの「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた取組が充実するよう、教育事務所としても施策や事業を工夫し、支援していきたいと考えています。

よきよき授業づくり発表会

「よきよき授業づくり発表会」では、コアティーチャーが思考力・判断力・表現力等を問う単元・領域別の評価問題を解けるようになるには、どのような授業を展開すればよいか、各教科の特性に応じて研究した成果を発表します。

【見所1】

児童生徒が主体的に活動し、深い学びにつなげていく授業モデルを学ぶことができます！

【見所2】

今年は、上谷教授にアクティブ・ラーニングの視点から講話をしていただきます！

「授業の悩み」解決のヒントは、ここにあります!!



期 日	平成 29 年 2 月 1 日 (水)	月 日
場 所	南九州市ひまわり館	曜日
日 程	13:30~13:45 受付	日 程
	13:45~13:55 開会行事	
	14:00~14:45 発表 I (小学校)	
	14:55~15:40 発表 II (中学校)	
	15:45~16:35 指導講話	
	講師：鹿児島大学教育学部 上谷 順三郎 教授	

まずは、先生方が、アクティブ・ラーナーに!

研究公開に行こう!

☆ 3学期は、2つの中学校が研究成果を発表します!

県「たくましい“かごしまっ子”」育成推進事業

学 校 名：枕崎市立別府中学校
研究テーマ：たくましい別府の子の育成
～別府小・中連携を通して～
期 日：平成 29 年 1 月 25 日 (水)
授 業 等：全体会 (体育館), 授業：柔道 (武道館)

ここが見所!⇒体力ナビによる体力運動能力調査の分析、指導法の工夫改善、地域スポーツ人材の活用、小中連携、学校行事・生徒会活動・部活動を通じた体力向上等についての協議を行います。

県「魅力ある学校づくり」(不登校対策プロジェクト)

「魅力ある学校づくりフォーラム in 南さつま市」
学 校 名：南さつま市立加世田中学校
研究テーマ：学校と関係機関等が連携した不登校児童生徒への対応
期 日：平成 29 年 2 月 7 日 (火)
会 場：南さつま市総合保健福祉センターあいかせだ いにしへホール

ここが見所!⇒不登校児童生徒への支援の在り方について発表し、SC等の関係機関とどのような連携が必要なのかパネルディスカッションを行います。

不登校の実態とその改善に向けて

1 不登校児童生徒の実態 (11 月末在籍率)

	小学校	中学校	合計
H28	0.35% ↑	2.46% ↓	1.08% ↓
H27	0.31%	2.63%	1.11%

在籍率は、昨年度と比較すると、小学校は 0.04% 高く、中学校は 0.17% 低くなっています。

2 これまでの具体的な対応及び手立てについて

学校における対応や手立てについて、いくつか事例を紹介します。

- ・ 毎朝、校長・教頭・生徒指導主任・養護教諭・教育相談員・SSW等が欠席者の確認及び対応について共通理解し、対応しています。
- ・ ケース会議を開催し、情報交換と各立場で具体的な行動を行い、次回のケース会議につなげています。
- ・ 保護者はもちろん、関係機関(市保護課及び福祉課等、児童相談所、SSW、SC等)とも日頃から連携を図っています。

3 年度末から年度初めに向けて

課題として、中学校 1 年生や小学校高学年での不登校在籍率の増加があります。そのことに留意して次年度に向けて、不登校への対応等をお願いします。

- (1) 小学校は、早い時期に入学先中学校に対して、該当児童等に関する【個別支援計画】や【個別支援記録】などを積極的に提供する。中学校は、生徒指導主任等が 6 年生の様子等を参観するなど具体的な小中連携を図る。
- (2) ケース会議は情報交換だけに終わらず、「インシデント・プロセス法(参加者全員が体験学習の形で行う事例研究)」などを取り入れ、具体的な手立てを共通理解し、実践につなげる。
- (3) 今年度の生徒指導体制を見直し、児童生徒の実態に即した体制づくりを行うとともに、児童生徒の学校生活の基盤となるよりよい学級づくり(居場所づくり)を行う。

南薩風土記 No1

南薩地域に伝わる伝統芸能等を紹介しします。

サンコンメ

サンコンメは、指宿市山川の浜児ヶ水区内で傳承されている正月行事で、市の無形民俗文化財に指定されています。主役を務めるのは、数え年で 15 歳になった男の子です。「五穀豊穡」「無病息災」などの祈願を書いた半紙を貼ったかさ(かさ)を被った主役が、2m ほどの太い孟宗竹を担いで見物人の輪の中でぐるぐる回ります。へとへとになると竹を地面に放り投げます。これを繰り返すうちに、竹が割れ、中に入れてある小銭が周りに飛び散ります。見物人は小銭を競って拾い、神棚に供えて一年の幸運を祈ります。



サンコンメの起源は不明ですが、かつては指宿の田良地区や小牧地区、枕崎、坊津、さらには南島を通う船上でも行われていました。いずれも海に関りのある若者たちの行事で、へとへとになるまでぐるぐる回るのは、船酔いに慣れるための通過儀礼ではないかという説もあります。

今年のサンコンメは、1 月 7 日 14 時から浜児ヶ水区内で行われます。

